

感染症だより

能登中部保健福祉センター
令和8年8月10日 発行

ダニ媒介感染症が増加しています！

ダニ媒介感染症とは、ウイルスや細菌などの病原体を保有するマダニに刺されることによって起こる感染症です。マダニは主に森林や草むらに生息しています。ダニ媒介感染症には、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、日本紅斑熱、つつが虫病などがあります。



重症熱性血小板減少症候群（SFTS）

SFTSウイルスを保有するマダニに刺されることで感染

- 潜伏期間：6～14日
- 主な症状：発熱、全身倦怠感、消化器症状（嘔吐・下痢）
重症化し死亡することもある（致死率10%～30%）
- 治療：対症療法が主体
- 発生状況：主に西日本で発生（近年増加傾向）
県内では、H27年以降患者の発生なし（R7年は猫の感染が2例）

R8.7.21時点
全国で患者数104人
（過去最多に近いペース）

日本紅斑熱

リケッチア・ジャポニカという細菌を保有するマダニに刺されることで感染

- 潜伏期間：2～8日
- 主な症状：発熱、発疹（四肢末端部）、刺し口が主要三徴候
- 治療：抗菌薬の投与で治療可能
- 発生状況：広域的に発生
県内では、毎年0～2件程度で推移

R8年7月29日時点で5件
近年増加傾向

つつが虫病

オリエンティア・ツツガムシという細菌を保有するツツガムシ（ダニの一種）に刺されることで感染

- 潜伏期間：5～14日
- 主な症状：発熱、発疹（顔面・体感部）、刺し口が主要三徴候
- 治療：抗菌薬の投与で治療可能
- 発生状況：全国的に発生
県内では、毎年0～4件で推移



予防方法

予防に有効なワクチンはないため
マダニに咬まれないことが重要

☆草むらや藪などマダニが多く生息する場所に入る際には、腕・足・首など**肌の露出を少なく**しましょう



帽子・手袋
首にタオルを巻く

長袖・長ズボン
を着用

出典：国立健康危機管理研究機構
「マダニ対策、今できること」

☆上着や作業着は家の中に持ち込まないようにしましょう

☆屋外活動後は、シャワーや入浴でダニが付いていないかチェックしましょう

☆ガムテープを使って服についたダニを取り除く方法も効果的です

☆忌避剤（虫よけ剤）はマダニを付着しにくくする効果があります



出典：国立健康危機管理研究機構
「マダニ対策、今できること」

マダニに咬まれてしまったら

取り付いたマダニを無理に引き抜こうとすると、マダニの一部が皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液が逆流して病原体が体内に入りやすくなる恐れがあります



咬まれた際は、無理に取ろうとせず、**医療機関（皮膚科など）を受診し**、適切な処置を受けてください

ダニ媒介感染症の詳細についてはこちら
（石川県ホームページ）

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kansen/menu/madani.html>

能登中部保健福祉センター 健康推進課
TEL 0767-53-6894
MAIL nanaohc@pref.ishikawa.lg.jp